

# 風水害に備える

## 風の強さと被害の程度



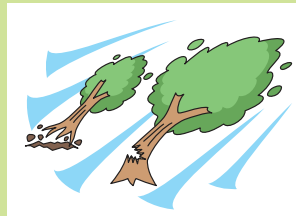
**15～20m未満**  
(強い風)

風に向かって歩けない状態。転倒する人もでる。



**20～30m未満**  
(非常に強い風)

風で飛ばされた物で窓ガラスが割れたり、屋根の瓦が飛ばされたりする。



**30m以上**  
(猛烈な風)

樹木が根こそぎ倒れはじめ。立ってられないほどで、屋外での行動は危険。

## 1時間の雨量と降り方



**10～20ミリ未満**  
(やや強い雨)

地面からの跳ね返りで足元がぬれる。雨音で話し声がよく聞き取れない。



**20～30ミリ未満**  
(強い雨)

地面一面に水たまりができ、車ではワイパーを速くしても見づらい。



**30～50ミリ未満**  
(激しい雨)

バケツをひっくり返したような雨。道路が川ようになる。



**50～80ミリ未満**  
(非常に激しい雨)

滝のように降る雨。水しぶきで視界が悪くなり、土石流など多くの災害が発生する。

## 避難のポイント

外出が危険なときは、家の2階などの少しでも安全な場所に移動する(垂直避難)。



避難前に、ガスの元栓やブレーカーを切り、火の始末や戸締りをする。



いざという時、居場所を知らせるために、笛(ホイッスル)を持っておく。



非常持出品は必要最低限にとどめ、背負って、両手は自由に動かせるようにする。



長靴は水が入って歩きにくく危険。裸足も禁物。運動靴をはく。



道路冠水時は、側溝、水路、マンホール(ふたが外れている可能性がある)、坂道(水深が浅くても水の流れが速い)、ため池などが危険。



橋を渡らないようにする。



足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を慎重に歩く。



先導の人は窪みや溝を確かめるため、長い棒を杖にしながら歩く。



2人以上で避難する。家族は口を揃えて避難する。



流水や冠水の中で歩ける水深は、膝ぐらい(男性70cm、女性50cm程度)までが目安になる。それ以上なら無理をせず、高い所で救助を待つ。



増水したら、子どもは浮き袋に乗せ、乳幼児はベビーバスを船のように使う。



自動車はもちろん自転車での避難も危険なので、必ず歩いて避難する。



田んぼや畑の見回りは避ける。



垂れ下がった電線には触らない。



隣近所に声をかけて助け合いを大切にする。病人や歩行困難な人は背負って避難する。

